

人のとなりに

井上 則之

私たちのまちを豊かに彩る川内川。そんな川内川の水面を切って静かに進むボート。
今回は、本市ローイング協会会長として漕艇の普及活動や、指導など行っている井上さんの漕艇への思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



漕艇との出会い

「試合の時は、部員全員で宿泊することができるといって、高校の部活動紹介を聞いて漕艇を始めた井上さん。和気あいあいとした雰囲気引かれ、漕艇部に入学したそうです。」

「高校2年生の時に、鹿児島でインターハイが開催されることになりました。漕艇部に30人入部したと聞きつけた当時の県ポーター協会は、部活の強化を図りましたが、練習がきつくと、最終的に残った部員は5人でしたと言います。」

そんな中、主将となった井上さんは、「学校が終わったら、すぐ川内川でボートを漕いでいた」と笑顔で話してくれました。

井上さんが思う漕艇の魅力は、仲間と息を合わせながら、全力で船を漕ぐ姿だそうです。「きつい場面が来た時に、前後で必死になって漕いでいる仲間の姿が見えるから、自然と頑張ろうという気持ちが湧いてくる」と言います。

地元でもう一度

京都の大学を卒業後、地元に戻ると、当時の高校生がボートを漕いでいるのを見たことをきっかけに、再び漕艇を始めたそうです。石川県で開催さ

れた国民体育大会にも出場し、その後、他の漕艇部のOB・OGから現在のローイング協会を作ろうと機運が高まり、市民の方にボートを身近に感じてほしいという思いで、本市ローイング協会の発足に関わったことも教えてくれました。

競技者の安全を守るために

漕艇は、川へ転覆することもある競技です。井上さんは、ローイング協会会長として、会員と協力し、川で活動する方々の安全を守るため、転覆した時にすぐ艇を出して助けにいけるように見守り活動をしています。また、陸と艇を通信機器でつないで広く監視できるように安全に配慮した取り組みをしています。

さらに、市内の高校の漕艇部のコーチとしても活動する井上さん。コーチを始めたのは、漕艇の審判として九州大会に行ったことがきっかけだったそうです。井上さんが各県の審判やコーチと親しく話している姿を見た高校生たちに、「僕たちを強くしてください」と頼まれ、コーチをすることになったといいます。

「指導していく中で、あいさつがしっかりできるようになり、仲間と協力している姿を見たりするときなどに、やりがいを感じる。出会った方々に助

漕艇をもっと身近に

漕艇はまだまだ知名度が低い競技ですが、本市には、令和2年に川内川交流センターができ、とても優れた練習環境が整備されています。週末には、漕艇の練習をしに多くの人が集まるそうです。

「今年9月に、本市で開催される全国市町村交流レガッタは、市民の皆さんにもっと漕艇の事を知ってもらえる良い機会。本市のローイング協会会長として、漕艇を身近に感じてもらうように頑張っていきたいです」とこれからの活動への思いを話してくれました。



自治会に加入して、コミュニティ活動に参加しよう

自治会とは

自治会は、一定の区域に住む人々が和気あいあいと住みやすいまちを目指し、地域のみんなで運営する集まりです。普段の暮らしにおける困り事など、一人では解決できないことも、地域の問題として捉え、みんなで考え、支え合うことを目的とした住民自治組織です。本市の自治会加入率は、73・7%（令和6年4月現在）で、多くの住民が参加しています。

また、自治会を地区の単位で包括し、スポーツ協会や子ども会などの団体の運営体制や、事務局体制の強化を図りながら、より充実した横断的な取り組みを展開する住民自治組織が、地区コミュニティ協議会です。

自治会や地区コミュニティ協議会ではこのようなことをやっています

触れ合えるまちづくり

お祭りやイベントなどの地域の交流事業や子ども会や老人会などへの支援を行っています。

また、広報薩摩川内の配布やまちの情報を提供しています。



きれいなまちづくり

ごみステーションの清掃や管理、資源回収、リサイクル活動の他、道路のごみ拾いや草刈りなどの環境美化などにも取り組んでいます。



安全安心なまちづくり

防犯灯の設置や維持管理などの防犯の取り組み、自主防災組織をはじめとした防災活動や交通安全活動などを通して、安全安心な地域づくりを目指しています。

また、地域の困り事や悩みを共有し、みんなで考えたり、自分たちでできることに取り組んだりすることで、解決できることもあります。



住みやすいまちづくりのために

自治会加入の申し込みは、お住まいの地域の自治会長に自治会加入申込書を持参してお申し出ください。

※自治会加入申込書は、市ホームページからもダウンロードできます。
※自治会長が分からない方は、コミュニティ課までお問い合わせください。



▲市ホームページ

いつでも助け合う

コミュニティとは、今暮らしている地域をより良くしようという人々の活動によって生み出される生活のことです。コミュニティをより良くするために、本市では自治会や地区コミュニティ協議会における交流や環境美化福祉などの活動を行っています。

また、近年の異常気象の増加に伴い、防災の観点からコミュニティの重要性が増しています。平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、救助された方のうち、約80%が、自力または家族・近隣住民の救助活動によるものだったといわれています。

これを教訓として、各地で自主防災組織が強化され、平成28年熊本地震や令和6年能登半島地震においても、自治会組織などを中心とした自主防災組織が、消防団と連携して救出作業や安否確認、炊き出しをはじめとした自主避難所の運営などを積極的に展開しました。

地域の人たちと触れ合い、交流を深めていきましょう。つながりを通じて日常の困り事から、いざという時も助け合い、支え合うまちにしていきたいです。

問合先／コミュニティ課
コミュニティG(内線4613)